

雑 報

最古代の金星表

バビロニアの古代人が金星を忠實に観測したことは有名な話であるが、其の中の最も古いものは、バビロニア第一王朝のアムミザドガ Ammizaduga 王の記録として現代にまで保存されてゐる。之れは去る1912年以來クーグラー Kugler 師、ワイドナア Weidner 氏、ラングドン Langdon 教授等によつて研究されたが、近頃、英國オクスフォードのフアザリンガム博士が研究を全うして同大學から The Venus Tablets of Ammizaduga と題して出版した。之れに據るに、

アムミザドガ王の即位の年は 紀元前1921年となり、従つて

アガデのザルゴン王は 紀元前2732年から2677年まで在位、

ナラムシン王は 紀元前2652年から2615年まで在位、

となる。故に、バビロニアの最後の王ナブナイドが「ナラムシン王は自分より3200年も以前の王である」と書き残した記録には、約1100年の誤りがあることとなる。

又、此の記録研究の結果、かのウルが陥落する以前にあつたと傳へられる月蝕は紀元前2283年三月八日(ユリウス暦)となり、之れが世界最古の蝕の記録である。

エデンバラ天文台の大反射鏡

英國エデンバラの王立天文臺では先年グラブ會社に口径37吋(940ミリ)の大反射鏡を注文したが、之れは此程出来上り、今年五月ニウカスル市で開かれた North-East Coast Exhibition に陳列された。展覽會終了後、天文臺に移される筈。此の器械は大鏡の直径37吋、厚さ6吋で、中央に3½吋の穴があつて、カスグラン式望遠鏡として用ゐられる筈。大鏡の焦點距離は15呎であるが、カスグラン式にすれば54呎となる。

ツアイスの光學器械製造所

英國の雜誌 Engineering 五月號に獨國イェナ市の有名なツアイス光學器械製造所の歴史を書いた記事がある。之れに據るに、同會社は 1866 年ツアイス Carl Zeiss (1816—1888)とアベ Ernst Abbe (1840—1905)と兩氏の協力によつて設立されたもので、一時は男女約一萬人を雇使してゐた程の盛んなものであつた。天文器械を作り始めたのは最近十數年以來であつてベルリンの大學天文臺の 650 ミリ機や、ジャヴ島レンバン市の 600 ミリ機などは有名なものであるが、しかし、今日まではツアイス製の器械は多く獨國內に於いて用ゐられ、國外には餘り出てゐない。一般にはツアイスの天文器械は外見が非常に立派で、素人を驚かせるが、しかし、工場に天文家を雇つてゐないため、専門學の立場から見ると、缺點が多いと評されてゐる。レンバン天文臺のものも、据え付けは數年前に終つたが、赤道儀装置に缺點があつて、到底使用に堪えないとは遺憾である。來年出來上る東京三鷹の 650 ミリはツアイス製であるが、成績は果して如何なるものか？

太陽コロナの光輝

内部コロナの發光が、太陽熱のために電離した自由電子の再結合によるものであるといふ考への下に、ザンストラ Zanztra 氏の理論を應用して、ロシアのレニングラド大學天文臺のゼセキチ W. Zessewitsch 氏が計算した所に據るに、

太陽の有効溫度を 6400° とすれば	コロナの光度は	-8.0 等級
〃 6200	〃	-6.9
〃 6000	〃	-6.0
〃 5800	〃	-5.2

となる。(Nature 3111)

宇宙線に関するジヨリ | 教授の奇説

數年前から、米國のミリカン R. A. Millikan 教授が発見した「宇宙線」Cosmic Ray の評判は今や全世界の學界にも俗界にも誼傳せられてゐる。(わ

が「天界」第67號第430頁を見られよ)。此の不思議な光線は、極短な電波であつて、驚くべき透過力を有するこゝ、例の X 線やガマ線以上のものである。しかし、最近の諸家の研究によるこゝ、此の宇宙線の強さは全空間にわたつて一様に擴がつて居ないし、又、時期によつて多少の變動があるものらしい。ミリカン教授の測定によれば、現代の宇宙線は、總ての恒星から我が地球に送られる全エネルギーの約 1 割であつて、之れが今地球上の諸生物に直接の影響を何も與へてゐないやうであるが、しかし昔しは必ずしも今のやうで無く、現在の十倍さか百倍さかのエネルギーを送つてゐたかも知れない。

之れについて英國の有名な地質學者ジョリー J. Joly 博士は最近奇説を發表した。即ち、近代に於いて癌種の病氣が甚だしく人類や一般生物を惱ましてゐるが、之れは宇宙線のエネルギーが弱いのに由るのであるが、以前には宇宙線がもつこ強力であつたために此の癌病を皆制服してゐたものだらうといふのである。癌は強力な電波によつて無くするこゝが出来るのだから。

して見るこゝ、吾人は偶々此の二十世紀に生れ出て、多くの癌種に惱まされるのは、全く宇宙線の不足といふ天文學的事情に基因するといふわけである。(Nature 311B)

ニュウトンの遺書が賣りもの

英國ロンドン・タイムスの報する所に據れば、有名な Sotheran 會社は今般ニュウトンの所有してゐた多くの書物を賣り物として發表した由。此れ等は去る1920年ニュウトンの舊宅が公賣となつた時、上記の會社の手に入つたものであつて、總計 858 卷、その殆んど總ては昔しの製本のまゝである。又、此のうち、83卷にはニュウトンの手記があり、更に其の20卷にはニュウトン自身の署名がある。尙ほ、此のうちの 4 卷はニュウトンがケンブリヂ大學のトリニティ學院に入つた1661年のもので興味が深い。又、「プリンシピア」の第一版と第二版とが含まれ、之れ等は皆ニュウトン自身が書き入れた訂正や、省略や、追加等がある。「Opticks」(光學論)の第一版(1704年の

もの)も含まれてゐるが、此の中には望遠鏡の構造限界に關し、ニウトンが書き加へた重要な一文がある。——此等の珍書が果して誰の手に歸するものであらうか？

アンドワエ教授 佛國パリ市ソルボンヌ大學の天文學教授アンリ・アンドワエ Henri Andoyer 氏は去る6月12日、66歳の齡を以つて逝去した。氏は理論天文家として有名であり、既に多くの書物を著して、世に知られてゐる人である。

ワナ翁 米國クリヴランド市の天文望遠鏡製作會社ワナリスエージ會社の創立者ワナ W. R. Warner 氏 (『天界』第33號第300頁を見られよ) は、去る五月8日夏期保養のため、渡歐したが6月25日、ドイツ國アイゼナハ市で逝去した。齡84歳であつた。ヤーキース天文台の「40吋」やリク天文台の「36吋」は此の會社で製作されたものである。

花山天文臺だより

京都驛と山科驛との間を汽車が通る時、北の窓外に近く山上に見える花山天文臺はもはや大京都の新しい一名所となつた。建築は今や全く完成したので、去る八月五日から、山本、中村、渡邊諸氏監督の下に、大學の天文學教室から大小あらゆる器械類の移轉が始まつた。ククやザードリウスの屈折赤道儀は言ふに及ばず、ブラシアの反射鏡や、グラブのシロスタト二箇、バンベルヒの子午儀、それに山本氏所有の大カルプ反射鏡まで、悉く山の上へ移された。移轉完了は九月末日。賑々しい落成式は十月十七日の豫定。

尙ほ、花山天文臺では今回光電光度計其他二三の新式器械を注文した。又、歐洲から口径100センチ(即ち40吋)の大反射鏡を購入する由。

本誌十月號は「花山天文臺記念號」とする。